

教員の養成の目標及び目標を達成するための計画

(1) 教員の養成の目標

本学園の教員養成の歴史は、明治45年の安城裁縫女学校での小学校教員の養成に遡る。以後、昭和25年開設の愛知学泉短期大学幼児教育学科に幼稚園教諭二種免許課程、昭和41年開設の愛知学泉大学家政学部家政学科に中学校・高等学校家庭科一種免許課程、昭和62年開設の経営学部経営学科に高等学校公民・商業一種免許課程、平成10年開設のコミュニティ政策学部で高等学校公民一種免許課程（現在は、経営学部・コミュニティ政策学部を統合し、現代マネジメント学部で高等学校公民一種免許課程）、平成17年に家政学部家政学科管理栄養士専攻に栄養教諭一種免許課程、平成20年に家政学部家政学科こどもの生活専攻に小学校教諭一種免許課程および幼稚園教諭一種免許課程、令和2年度に家政学部ライフスタイル学科に小学校教諭一種免許課程、管理栄養士学科に栄養教諭一種免許課程、こどもの生活学科に小学校教諭一種免許課程および幼稚園教諭一種免許課程を設置し、現在に至る。

本学園の「建学の理念」は、「庶民性」と「先見性」である。「庶民性」とは、人は誰でも無限の可能性を持っており、その潜在能力を開発するためには学問をして、その学問の成果を地域社会に還元することを示している。「先見性」とは、来るべき文明を予知して教育の理想像を打ち立て、その達成のために全知全能を傾注することである。

本学は昭和41年に開設され、創設者の寺部だい夫妻が生涯を通して心の拠りどころとし、常に求めてやまなかった「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を教育の基本として受け継いでいる。つまり、この四大精神の実践を通して、「家庭に温かい心、社会に新しい息吹を与えることのできる人間を育成すること」を「建学の精神」としている。したがって、これら「建学の理念」と「建学の精神」は、すなわち同時に、将来の世代を育成する責任を付与された教員を養成する目標でもある。

これに加えて、近年、本学では、これらを現代社会においてより発展させた「知・徳・体」に「社会人基礎力」を加えた「知・徳・体・行」という新しい教育モデルを提唱している。この新しい教育モデルもまた当然、新時代の教員養成の目標である。

(2) 当該目標を達成するための計画に関すること

本学家政学部には、教職課程委員会が設置されている。同委員会の規程によれば、構成員は、学部長、教務委員長、教職課程担当教員、教務課教職課程担当職員、その他学長が指名する者である。

学部教職課程委員会の業務は、教員養成に関して学部の教育目標を実現するための具体的事項を審議することである。具体的には、(1)教職課程の編成及び実施に関する事項、(2)教

職指導に関する事項、(3)教職課程の自己点検・評価及び改善に関する事項、(4)その他、教員養成に関する事項、である。したがって、当該目標を達成するための計画に関することは、この学部教職課程委員会で審議され、実行されている。

例えば、教員の採用を増やすために、「教員採用試験対策特別講座」を実施している。これには、専任教員が分担して授業外に行う講座と、外部の業者に委託して行う講座がある。日々の授業はもとより、これらの講座も更に充実させて、未来を担うこどもたちを教育することのできる、高い教養、専門的知識・技術、社会人基礎力を備えた教員を輩出し続けたい。